

はたらくきずな

市社会福祉大会で 坂本光司氏が講演

字大学院教授

坂本光司さん

誰でも働ける社会

パイロット事業所も活動発表

第46回富士市社会福祉大会が11月21日、ロゼシアターで開かれました。永年、社会福祉に尽くしてこられた市民、団体への表彰状や感謝状の贈呈に続いて、今年はユニバーサル就労をテーマにした活動発表と記念講演が行われました。記念講演講師の元法政大学大学院教授坂本光司氏は「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者としても知られています。豊富な事例をもとにした全国の「大切にしたい」会社の紹介に、参加者たちは真剣に耳を傾けていました。（講演内容などは2面に）

「人を幸せにする会社 だれでも働ける社会」 坂本氏が熱弁！

記念講演で坂本氏は冒頭「事例発表を聞いて思い出すこと」として、生まれながらに内臓疾患を抱え、就職できずにいた岐阜県の男性が自ら立ち上げた会社を障害者など40人を雇用するまでに育て上げたこと、鹿児島県の精神科の女医と福祉士のコンビが経営の素人であるにもかかわらず重度の精神障害を抱える人たち80人を雇用する企業を作り上げたことを紹介。「彼らの一番の願いは働くこと」との女医さんの言葉を引用して働くことの大切さを訴えました。

続いて坂本氏は「息子・娘を入れたくない会社」として、「都合が悪くなるとリストラをする会社」「社員は大切にすけど取引先や協力工場を踏み台のようにする会社」「安く買えるものがあるのに売り上げを伸ばそうと高いものを売りつけるような会社」「障害者や働きたい高齢者に働く場を提供しない会社」などと挙げました。

そして会社の経営には「目的」「手段」「結果」の3つがあるが、最も大切なことは「目的」で、正しい「目的」と正しい「手法」があれば「業績」は上がると話し、企業経営の目的については「関係

する人々を幸せにする」のが王道であり、「それ以外に目的はない」と強調しました。

経営者が大切にすべき事

近江商人の「3方良し」ならぬ「5方良し」が経営では大切という持論については、経営者が大切にしなければならぬのは

①社員とその家族 ②仕入れ先・協力会社・外注会社 ③下請け企業 ④顧客 ⑤地域住民 ⑥株主の5者を挙げ、特に仕入れ先や下請け企業については「社外社員と考え本場の社員同様に愛情をそそがなければならぬ」と話しました。一方、社員の側に立つと、最も大切にしなければならぬのは顧客であるとして、社員が会社や上司に不信を持っていけば業績向上に努力しないし、客が感動するような商品も作れないときっぱりと断定しました。

良い会社は社員の子供も多い

社員や家族を大切にする会社の事例としては、社員が若くして亡くなった時にその子供を大学卒業までサポートした福島県の建設会社、社員だけでなく社員の家族の人間ドックまで負担する浜松市の電気工事会社、本人が辞めると言ってきた94歳まで雇用した磐田市の会社、どんなに忙しくても年末やお盆休みなど従業員が休みた

い時にはきっちり休みを取る長野県の旅館などを紹介。「少子高齢化というけれど、社員を大切にする会社の社員は子供も多い。有給休暇も取れないような会社は社員の子供が少くない」と、現代社会への警告も残しました。

このほか、仕入れの値段をしっかりと管理して仕入れ価格を不当に安くするようなことのない会社、支払いを現金にする会社など取引先を大切にする会社、1500人の従業員のうち500人が障害を抱える人たちだという北海道の会社や、自分のところに手ごろな仕事がない場合には障害者施設にわざわざ仕事を発注するなど地域に貢献している会社を次々に紹介。会場からは感動と同感の声が聞かれました。

大会には民生委員など約600人が参加し、坂本氏の豊富な事例をもとにした講演にじっと耳を傾けていました。



協力企業説明会の 参加160社に

富士市ユニバーサル就労支援センターが毎月開いている協力企業説明会の参加企業が11月末までに160社になりました。これまで参加した企業のうち、84社が協力企業として認定され、短時間労働を提供する際に自分たちの仕事をもう一度見直すのにも好適な「業務分解」を実施した企業も10社を数えるまでになりました。就労決定者も48人になりました。

説明会ではほぼ毎回のよう

に、協力企業の先駆的な取り組みや就労支援における課題、具体的な採用事例などが紹介されています。9月には介護付き有料老人ホームを運営するウエストストライフサポート(横割本町)、10月には介護事業などの特定非営利法人ファインケア(中央町)の担当者の講話がありました。2社はともにユニバーサル就労支援センターを通して雇用していますが、それぞれの採用に伴う課題や日常的に仕事をすすめるうえでの配慮事項などを紹介しました。

また11月にはプラスチック加工の楠見製作所(宮下)担当者がユニバーサル就労の課題などを話してくれました。

アカデミー農園で収穫

農福連携を目的に市内岩松で今年からスタートした「アカデミー農園」で、さまざまな野菜が収穫されています。富士市ユニバーサル就労支援センターの支援員の指導で、土壌作りから種まきや草取りなどの各種作業を体験して収穫までこぎつけた同センターの利用者さんたちは、一つの仕事をやり終えたことに満足そうでした。

農園は富士川河川敷にある約1アールの畑地。5月の連休明けから土起こしや肥料の投入などを行い、並行して育てた野菜の苗などを植え付けてきました。作業を退屈にしないために野菜の種類を豊富にしたこともあり、ナスやキュウリ、枝豆などの夏野菜のほか、落花生、サトイモ、カボチャなど多種多様です。

作業は普通週1回。疲れないよう1時間半から2時間程度にしましたが、今年は暑い日が多く、なかなか大変な労働となりました。中にはスイカのように暑さ負けか水やりが不足したせいか実はなったものの成熟しなかったものなどもあって、参加者がっかりさせたこともありました。延べ36人が農作業を体験しました。

10月中旬の収穫作業には同セ

ンター利用者5人と支援員2人が一緒になって、サツマイモとカボチャ、落花生、ナスなどを収穫しました。少し早かったせいか細身だったり、小さなものもありましたが、それぞれ皆で分け合って自宅に持ち帰ったり近所におすそ分けしたりしたそうです。

支援員の鈴木さんによると、野菜嫌いだっただ子供が利用者さんが持ち帰ったナスを食べてから野菜好きになった、という例などもあって励みになっっているそうです。同センターではこれからも、要望のある野菜を中心にいろいろな野菜作りに挑戦していきます。



ハローワークでも出張相談

富士市生活支援課は南町のハローワークの一角で、ユニバーサル就労の出張相談を受け付けています。相談は毎月第4木曜日の午前9時から11時半まで、原則として予約が必要です。

相談は今年6月からスタートしました。これまで各月1〜2人の相談者が訪れ、生活支援課の木戸実さんが対応しています。ハローワークを訪れたついでにユニバーサル就労の相談をしてみたいという方や、ユニバーサル就労そのものに関心があり内容を聞いてみたいという方などが訪れています。中にはハローワークに就労相談をする中で、ユニバーサル就労を案内された、という方もいます。

退職後のブランクが長い、子育て・介護で時間の合う仕事がない、母子・父子家庭で遅くまで残業できない、病気で離職し再就職するのに不安がある、など、悩みを抱える方はぜひ一度訪ねてみてください。

●お問い合わせ

ハローワーク富士職業紹介部門
(担当:新宮)

☎0545・51・2151



相談を受ける木戸さん

支援センターから

就労支援員 三神和之さん



ユニバーサル就労支援センターが発足して1年と8か月が経ちました。今回はその中でユニバーサル就労の趣旨を理解して利用者を受入れ、最終的に雇用していただいたK社とAさんの例をご紹介します。

Aさんはこれまで場の空気・雰囲気を読めずに周りから孤立したり、上司や同僚と上手く馴染めなかったり、仕事が長続きしませんでした。また、仕事が複雑になるとなかなか覚えられず、自信を無くしてしまうことがよくありました。そうした自分の特徴(個性)を事前に周りの人や上司に伝えられたら、理解してもらえたら、もう少し働きやすくなるのにと常々考えていました。

ユニバーサル就労では、事前に利用者の働き辛さを企業に伝えられた上で、職場見学や就労体験、コミュニケーションを受け入れてもらいます。K社はAさんに合った働き方ができるよう、配慮してくださいました。Aさんもそれに応えるよう自身の弱みに向き合いながらも頑張って雇用に至りました。

一般雇用で採用面接を受けていたら、ひよっとして落ちていたかもしれぬAさんですが、今では周りの皆さんの信頼も得て働く喜びに満ちた日々を送っています。

富士市ユニバーサル 就労推進協議会

本年度2回目の富士市ユニバーサル就労推進協議会がこのほど、市役所で開かれました。ハローワーク富士、市商工会、ユニバーサル就労支援センター、協力企業など関係12団体や生活支援課など市関係課から約20人が出席して、優良企業の顕彰や高齢者の雇用状況について意見を交換しました。

市は優良企業の顕彰は平成31年から実施していく予定であること、顕彰事業はユニバーサル就労の普及を目的とし、ユニバーサル就労支援センターの協力企業を対象とするが必ずしも雇用に限定せず職場見学や就労体験での協力も考慮すること、協件数だけにとらわれないこと、などの案を示しました。



一方で出席者からは、顕彰自体が協力企業の優劣をつけてしまいかねないことや、協力企業だけでなく、そこで働く従業員も顕彰の対象としたらどうか、などの意見も出されました。

市は今回出された意見を参考にしながら、顕彰事業の実施方法について検討していきます。

また高齢者雇用については、今後の生産年齢人口の減少が市の産業の維持に大きく影響するとの認識のもとに、その対策の1つとして高齢者雇用を考えていくことも必要であるとの考え方が示されました。

全国から視察来訪

富士市ユニバーサル就労支援センターには全国からの視察が相次いでいます。9月から11月までに岩手県陸前高田市、北海道砂川市と伊達市、東京都多摩市、埼玉県加須市から市議会議員や市職員らが訪れました。

来訪者からの質問で多いのは、富士市がユニバーサル就労の支援を行政、議会、事業者・事業者団体を、市民の協力で立ち上げるようになった経緯についてで、人口20万人強の市で署名が1万9千も集まったことに驚きの声があがりました。陸前高田市の職員からは、条例化までの苦労などについて細かな質問も出され、条例化に向けた意欲がうかがえました。多摩市議からはユニバーサル就労を進めるうえで、従来の就労支援組織や既設の組織との連携などはどうしているのか、などの質問もありました。

イベントのお知らせ

誰もが働き暮らせるまちづくり

～富士市のユニバーサル就労のいま、そしてこれから～

日時 2019年 1月 31日(木)
13:30～15:45 (13:00 開場)

会場 富士市交流プラザ2F 多目的ホール

定員 150名 (事前申込) **参加費無料**

- 第一部：講演【講師】中央大学法学部教授 宮本太郎氏
- 第二部：パネルディスカッション

お申込・お問い合わせ

〒416-8558 富士市本市場 432-1
フィランセ東館1F 富士市ユニバーサル就労広報室
TEL/FAX 0545-32-7009 E-mail: f-uw@machi-yumin.com



サポーター登録のおねがい

サポーター数：370名 (11月末現在)

富士市のみならずユニバーサル就労を育てよう！サポーターに登録された方には、月1回程度のメルマガ情報、年4回の情報紙の情報提供をしています。登録料・年会費は無料、口コミやシェアなど様々な方法でユニバーサル就労の広報・周知にご協力をお願い致します。

●Webから
HPの登録フォームに記入、送信して下さい。
HP: <http://f-uw.com>

●申込用紙から
「ユニバーサル就労サポーター募集リーフレット」に申込書が添付されています。(ご希望の方には郵送いたします。)



■ 10月の有効求人倍率 (ハローワーク富士管内)：1.64倍 前月比 -0.02ポイント 前年同月比 +0.07ポイント